

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(GDP (IMF WEO) :<http://mylibrary.maeda1.jp/GDP.html>)

マイライブラリー:0569

(注)本稿は 2022 年 10 月 16 日から 21 日まで 5 回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2022.10.22

前田 高行

IMF 世界経済見通し:一年間で 4 度も下方修正された GDP 成長率

目次	頁
1. 2022 年の GDP 成長率	2
2. 2022 年の名目 GDP	2
3. 来年(2023 年)の GDP 成長率(予測)	3
4. 2020 年~2024 年の GDP 成長率	4
5. 2022 年 GDP 成長率見直しの推移	4

IMF(国際通貨基金)が「世界経済見通し(World Economic Outlook)」の最新版(以下 WEO2022Oct)を発表した。このレポートには EU、ASEAN などの経済圏及び約 200 カ国の 1986 年から 2027 年までの GDP 成長率、GDP 総額、一人当たり GDP など主要経済指標をまとめた Database が付されている。レポートは毎年 4 月と 10 月の年 2 回発表されており、中間の 1 月と 7 月には World Economic Outlook Update と称される簡略版が公表され、主要経済圏及び米、独、日、中、インド、サウジアラビアなど主要国について前後 3 年間の GDP 成長率が開示されている。

本稿では WEO2022Oct に基づき世界の主要経済圏及び主要国について今年及び来年の成長率を比較し、次いで 2020 年から 2024 年の 5 年間にわたる実績或いは予測の成長率を概観する。また前回 7 月の経済見通しに対して GDP 成長率がどのように見直されたかを検討する。さらに今年の成長率について直近 4 回(2022 年 1 月、4 月、7 月及び今回 10 月)の推移を見る。

* WEO レポート:

<https://www.imf.org/en/Publications/WEO/Issues/2022/10/11/world-economic-outlook-october-2022>

(同日本語版)

<https://www.imf.org/ja/Publications/WEO/Issues/2022/10/11/world-economic-outlook-october-2022>

(世界の成長率 3.2%、米日独は 1%台、5%を超えるサウジアラビア、インド、ASEAN！)

1. 2022 年の GDP 成長率(末尾表 1-B-2-08 参照)

WEO2022Oct では今年の世界の成長率は 3.2%とされており、前回 7 月と変わらない。ロシアを除き主要経済圏或いは各国の GDP はいずれもプラス成長であるが、IMF は物価上昇、長引くコロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻等により経済活動は広範囲に悪化しているとの判断を示している。このため世界の成長率も昨年の 6.0%から今年は 3.2%と大幅に鈍化すると見込んでいる。

経済圏で見ると EU 圏、ASEAN-5 カ国及び中東・中央アジア諸国の成長率はそれぞれ 3.1%、5.3%、5.0%であり、いずれも 7 月の数値を横ばい或いは上方に修正しているが、その上げ幅は小さく先行きの不透明感を示している。

主要な国を見ると、米国 1.6%、ドイツ 1.5%、日本 1.7%、英国 3.6%、中国 3.2%、インド 6.8%、ロシア▲3.4%、サウジアラビア 7.6%である。前回 7 月に比べると明暗が分かれ、米国、中国、インドは下方修正された一方、日本、サウジアラビアは横ばい、英国及びロシアは上方修正されている。ロシアは前回の▲6.0%から 2.6 ポイント見直されている。前回 4 月はウクライナ侵攻がマイナス要因とされたが、その後、OPEC+の減産強化策で原油・ガス価格が高値に推移しているためと考えられる。

中国はコロナのロックダウン対策により経済回復が遅れることが懸念され、前回 7 月の 3.3%からさらに引き下げられている。これに対してインドは 7 月の 7.4%から今回 6.8%に下方修正されたものの産油国を除く他国に比べかなり高い成長率が予測されている。

(世界の GDP 総額 103 兆ドル、1 位米、2 位中国の 2 国で全世界の 44%占める！)

2. 2022 年の名目 GDP(末尾表 1-B-2-12 参照)

全世界の 2022 年名目 GDP(at current price)総額は 103 兆 5 千億ドルに達する。トップは米国の 25 兆ドル、2 位は中国の 20 兆ドルである。この 2 カ国だけで世界全体の GDP の 44%を占めている。

第 3 位は日本の 4 兆 3 千億ドルであるが、米国、中国との格差は大きい。ドイツが日本に続く 4 位でその GDP は 4 兆ドル強である。これら 4 か国で世界の GDP の過半を超えている。5 位以下 10 位までは以下のとおり。

インド(3.5 兆ドル)、英国(3.2 兆ドル)、フランス(2.8 兆ドル)、カナダ(2.2 兆ドル)、ロシア(2.1 兆ドル)、イタリア(2 兆ドル)

これら上位 10 カ国の世界の GDP に占める比率は 67%に達し、また G7 構成国はいずれもトップ 10 に入っており、G7 の GDP 総額は 44 兆ドル、世界に占める割合は 42%である。11 位から 20 位までの国は、イラン、ブラジル、韓国、オーストラリア、メキシコ、スペイン、インドネシア、サウジアラビア、オランダ、トルコの各国である。

中東諸国ではサウジアラビアが 1 兆ドルを超え世界 18 位に、またトルコは 8,500 億ドルで世界 20 位である。その他の中東諸国ではイスラエルが世界 28 位、UAE、エジプト、カタールの世界順位はそれぞれ 32 位、33 位、55 位である。

(ドイツは来年マイナス成長の見通し！)

3. 来年(2023 年)の GDP 成長率(予測)(末尾表 1-B-2-08 参照)

(1)今年との比較

今回 10 月見通しでは来年(2023 年)の世界の成長率は 2.7%と予測されており、今年の 3.2% に比べ成長率が 0.5%鈍化すると予測されている。各経済圏及び国別でもほぼ同じ傾向を示しており、以下の通り大半の国で成長率が低下する見込みである。

米国 1.6%(今年)→1.0%(来年)(▲0.6%)、日本 1.7%→1.6%(▲0.1%)、インド 6.8%→6.1%(▲0.7%)、英国 3.6%→0.3%(▲3.3%)、ドイツ 1.5%→▲0.3%(▲1.8%)、サウジアラビア 7.6%→3.7%(▲3.9%)、

ドイツが来年にマイナス成長に沈むと予測されていることは注目に値する。ドイツはこれまでロシアの石油・天然ガスに大きく依存しており、ウクライナ侵攻で同国からの輸入が全量ストップ、他国からの代替輸入でエネルギーコストが高騰する恐れのあることがマイナス成長予測の主な原因であろう。

これらの国々に対し中国及びロシアは来年の成長率が今年を上回ると予測されている。ロシアは ▲3.4%(今年)→▲2.3%(来年)とマイナス成長が続くが、石油、天然ガスが高値に推移することにより GDP の落ち込み幅が小さくなると予測したためであろう。

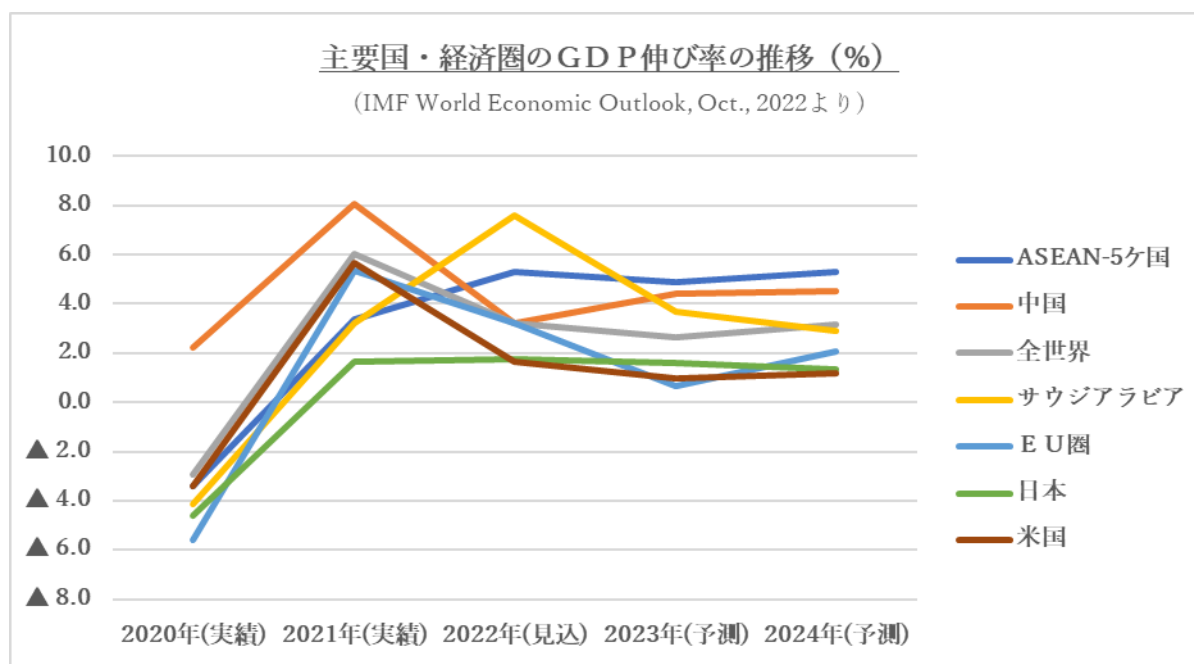
中国の場合は 3.2%→4.4%(1.2%)と成長が加速すると予測している。2020 年に全世界が大幅なマイナス成長を余儀なくされた中で同国だけはプラス成長を維持しており、コロナ禍がおさまると思われる来年は再び成長が加速すると IMF は予測している。

(2)前回(7 月)との比較

来年の成長率について今回(10 月)と前回(7 月)を比べると、ほぼすべての国と地域で下方修正されている。来年の世界の成長率は 2.7%であるが、前回 7 月は 2.9%とされており、▲0.2%低下している。主要経済圏では EU の来年の成長率は 1.2%(前回 7 月見通し)→0.5%(今回 10 月見通し)で▲0.7%の減速が見込まれている。ASEAN5 か国も 5.1%→4.9%(▲0.2%)の減速とされている。

国別に見ても各国ともロシアを除き来年の GDP 成長率はいずれも 7 月時点より悪化の度合いが大きく、ドイツの場合は前回 7 月の+0.8%から今回 10 月は▲0.3%と大幅に悪化すると見込んでいる。

4. 2020年～2024年のGDP成長率(末尾表1-B-2-11参照)



今年を挟む2020年から2024年までの前後5年間の主要経済圏と国のGDP成長率の推移を見ると、2020年は全世界の成長率は▲3.0%のマイナスであり、EU及びASEAN5か国の経済圏もそれぞれ▲5.6%、▲3.4%であった。国別では米国(▲3.4%)、日本(▲4.6%)、ドイツ(▲3.7%)、サウジアラビア(▲4.1%)など大半の国がマイナス成長であり、中国(2.2%)、エジプト(3.5%)など一部の国だけがプラス成長を記録した。

コロナ禍が下火となった2021年は、前年の反動もありほぼすべての国でプラス成長であった。そして今年(2022年)はウクライナ紛争とエネルギー価格の高騰により産油国のサウジアラビア等一部の国を除き、大半の国では前年を下回る成長率を余儀なくされている。2023年及び2024年の成長率は経済の先行きに不透明感が濃いため、多くの国で成長率が横ばいになると予測されている。

主な地域、国の5年間の成長率推移は以下のとおりである。

	2020年(実績)	2021年(実績)	2022年(見込)	2023年(予測)	2024年(予測)
全世界	▲3.0%	6.0%	3.2%	2.7%	3.2%
EU圏	▲5.6%	5.4%	3.2%	0.7%	2.1%
ASEAN5カ国	▲3.4%	3.4%	5.3%	4.9%	5.3%
米国	▲3.4%	5.7%	1.6%	1.0%	1.2%
日本	▲4.6%	1.7%	1.7%	1.6%	1.3%
中国	2.2%	8.1%	3.2%	4.4%	4.5%

5. 2022年GDP成長率見直しの推移

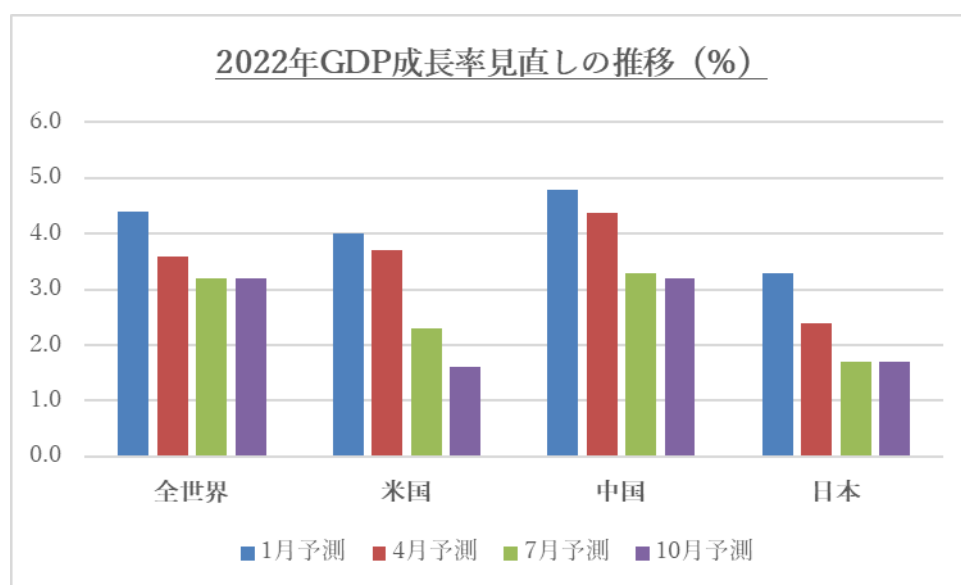
IMFの世界経済見通しは毎年4月、10月に全世界200弱の国について成長率の見直しが行

われ、さらに 1 月及び 7 月には主要な国と経済圏の成長率が発表されている。主要な国と経済圏については 3 カ月ごとに検証されていることになる。

最近の特徴はコロナ禍、ロシアのウクライナ軍事介入、エネルギー価格の激しい変動など国際経済を取り巻く環境が不透明感を増していることである。このため IMF の成長率見直しも 3 カ月ごとに大きく変動すると言う特徴が見られる。ここでは直近 4 回(2022 年 1 月、4 月、7 月及び今回 10 月)の成長率見直しの推移を比較する。

(4 回連続で下方修正された米国および中国！)

5-1 全世界及び日本、米国、中国の成長率見直しの推移



直近 4 回の IMF 経済見直しにおける 2022 年の世界の GDP 成長率は 2022 年 1 月見直しでは 4.4%であったが、その後 4 月は 3.6%、7 月 3.2%と 3 回連続して下方修正され、今回 10 月は横ばいとされている。

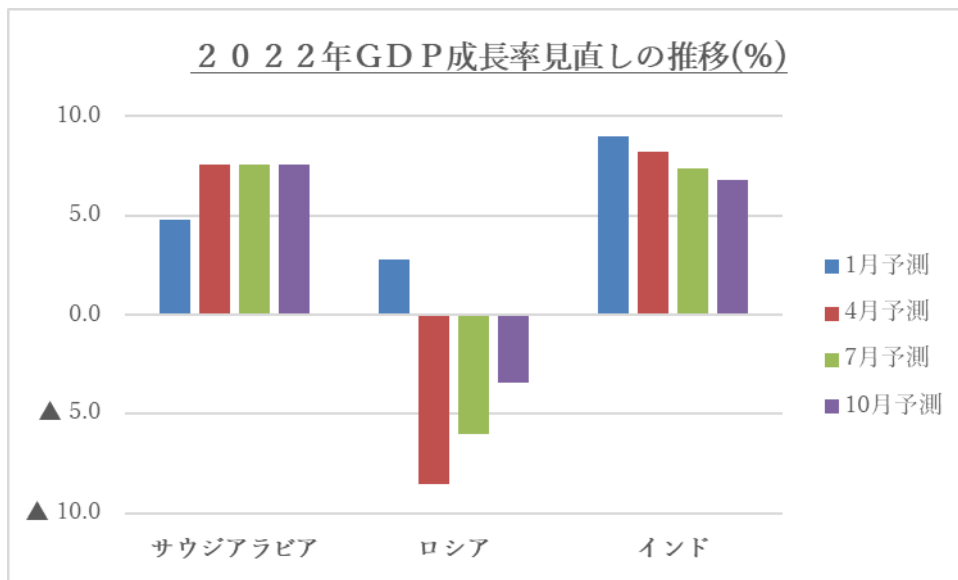
米国は 4.0%(1 月)→3.7%(4 月)→2.3%(7 月)→1.6%(10 月)であり、4 回連続して下方修正され今回の数値は 1 月の予測値の半分以下となっている。中国の場合も 4.8%(1 月)→4.4%(4 月)→3.3%(7 月)→3.2%(10 月)であり、米国同様 4 回連続で下方修正されている。

日本の 2022 年成長率は 3.3%(1 月)→2.4%(4 月)→1.7%(7 月)→1.7%(10 月)に集約されている。4 月、7 月と連続して下方修正され、7 月の成長率は 1 月の半分程度に引き下げられた。10 月は直前の 7 月の成長率が維持されているが 1%台の低い水準にとどまっている。

(OPEC+の盟主に極端な明暗！)

5-2 ロシアとサウジアラビアとインド

サウジアラビアとロシアは米国と並ぶ三大産油国であり、両国は OPEC+(プラス)の盟主として最近の石油価格の高値安定を主導している。しかしロシアは 2 月にウクライナに侵攻、多くの国から経済制裁を受けた結果、GDP 成長率はマイナスに暗転している。



このため両国の今年の GDP 成長率は 1 月にサウジアラビア 4.8%、ロシア 2.8%とされた後は明暗を分けている。すなわち 4 月の見直しではサウジアラビアが+7.6%と上方修正された一方、ロシアは▲8.5%のマイナス成長と大幅に下落している。2 月に始まったウクライナ紛争により石油価格が急騰したことは輸出国のサウジアラビアに大きな追い風となった一方、紛争当事者のロシアの経済は極めて不透明な状況である。

7 月及び 10 月(今回)の成長率予測ではサウジアラビアは引き続き 7.6%の高い成長を維持すると予測されている。一方、ロシアはエネルギー価格の高騰により経済が下支えされる結果となり、GDP 成長率は当初 4 月の▲8.5%から 6.0%(7 月)→▲3.4%(今回)へ改善されている。

アジアの新興経済大国であるインドの 2022 年の GDP 成長率予測は、9.0%(1 月)→8.2%(4 月)→7.4%(7 月)→6.8%(10 月)である。米国、中国などと同様連続して下方修正されている。しかしながら同国の今年の成長率は世界平均あるいは米国、中国を大きく上回る見通しである。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
 Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
 E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

MENAと世界主要国の GDP 実質成長率(2022-23年)

国名	2022年10月見通し(今回)			2022年7月見通し(前回)		前回/今回比較	
	2022年成長率(%)	2023年成長率(%)	増減	2022年成長率(%)	2023年成長率(%)	2022年成長率(%)	2023年成長率(%)
全世界	3.2	2.7	▲ 0.5	3.2	2.9	0.0	▲ 0.2
米国	1.6	1.0	▲ 0.6	2.3	1.0	▲ 0.7	0.0
EU圏	3.1	0.5	▲ 2.6	2.6	1.2	0.5	▲ 0.7
ドイツ	1.5	▲ 0.3	▲ 1.8	1.2	0.8	0.3	▲ 1.1
日本	1.7	1.6	▲ 0.1	1.7	1.7	0.0	▲ 0.1
英国	3.6	0.3	▲ 3.3	3.2	0.5	0.4	▲ 0.2
中国	3.2	4.4	1.2	3.3	4.6	▲ 0.1	▲ 0.2
インド	6.8	6.1	▲ 0.7	7.4	6.1	▲ 0.6	0.0
ASEAN-5 ヶ国	5.3	4.9	▲ 0.4	5.3	5.1	0.0	▲ 0.2
ロシア	▲ 3.4	▲ 2.3	1.1	▲ 6.0	▲ 3.5	2.6	1.2
中東・中央アジア諸国	5.0	3.6	▲ 1.4	4.8	3.5	0.2	0.1
サウジアラビア	7.6	3.7	▲ 3.9	7.6	3.7	0.0	0.0

GDP 対前年伸び率(%、2022年10月値)

国名	2020年 (実績)	2021年 (実績)	2022年 (見込)	2023年 (予測)	2024年 (予測)
全世界	-3.0	6.0	3.2	2.7	3.2
米国	-3.4	5.7	1.6	1.0	1.2
E U圏	-5.6	5.4	3.2	0.7	2.1
ドイツ	-3.7	2.6	1.5	-0.3	1.5
日本	-4.6	1.7	1.7	1.6	1.3
英国	-9.3	7.4	3.6	0.3	0.6
中国	2.2	8.1	3.2	4.4	4.5
インド	-6.6	8.7	6.8	6.1	6.8
ASEAN-5ヶ国	-3.4	3.4	5.3	4.9	5.3
ロシア	-2.7	4.7	-3.4	-2.3	1.5
中東・中央アジア諸国	-2.7	4.5	5.0	3.6	3.5
サウジアラビア	-4.1	3.2	7.6	3.7	2.9
トルコ	1.9	11.4	5.0	3.0	3.0
エジプト	3.5	3.3	6.6	4.4	5.2
UAE	-4.8	3.8	5.1	4.2	3.9
イラン	3.3	4.7	3.0	2.0	2.0

1-B-2-12

世界上位 20 力国と中東主要国の GDP (2022 年、at current price)

G7	順位		10 億ドル	%	累計
*	1	米国	25,035	24.2%	
	2	中国	20,256	19.6%	43.8%
*	3	日本	4,301	4.2%	
*	4	ドイツ	4,031	3.9%	51.8%
	5	インド	3,469	3.4%	
*	6	英国	3,198	3.1%	
*	7	フランス	2,778	2.7%	
*	8	カナダ	2,200	2.1%	
	9	ロシア	2,133	2.1%	
*	10	イタリア	1,997	1.9%	67.1%
	11	イラン	1,974	1.9%	
	12	ブラジル	1,895	1.8%	
	13	韓国	1,734	1.7%	
	14	オーストラリア	1,725	1.7%	
	15	メキシコ	1,425	1.4%	
	16	スペイン	1,390	1.3%	
	17	インドネシア	1,289	1.2%	
	18	サウジアラビア	1,011	1.0%	
	19	オランダ	991	1.0%	
	20	トルコ	853	0.8%	80.9%
	21	台湾	829	0.8%	
	24	アルゼンチン	631	0.6%	
	28	イスラエル	527	0.5%	
	32	UAE	504	0.5%	
	33	エジプト	469	0.5%	
	39	南アフリカ	411	0.4%	
	55	カタール	221	0.2%	
		全世界	103,496	100.0%	
		(G7)	43,541	42.1%	